



白血球は、微生物と戦った後どうなるの

白血球は、病気から体を守るガードマン

白血球は、体の中へ入りこんだ、細菌などの微生物と戦う役目をしています。

細菌などの微生物と戦う白血球には、二つの種類があります。その一つが、ふつうの白血球（好中球）です。白血球は、体の中へ細菌が入ってくると、血管のかべを通りぬけて、細菌の入ってきたところに集まります。そして、細菌を包みこむようにして次々と食べ、細菌を分解して、毒のないものへ変えていきます。そして、20～30個も食べると、自分も破れつしてしまい、死んでしまいます。

もう一つは、大食細胞（マクロファージ）です。ふつうの白血球よりもおくれて集まってくるが、破れつした白血球のかけらや、細菌の死がいなどを、かたっぱしから食べて片づけてしまいます。うみ（のう）は、戦って死んだ白血球と、細菌の死がいなのです。

白血球は、どんどんつくられている

白血球は、1ミリ立方メートルの血液の中に、7000個ほどありますが、血液中に居るのは、たったの9時間です（血管の外に出たら、どの位生きて居るのは、わかっていません）。そのため、体全体では、1日に、約773億個の白血球が、新しくつくられていることとなります。（監修・保志 宏）

